

『一生懸命』幻の新座市議会報告第66弾!



たかむらともや

2011年 3月 31日発行

③ 議会中断

3月11日(金)の午後、共産党の工藤さんの一般質問の最中にあの地震が来ました。普通の揺れではなかったので、外に出た方がいい!」と議場のドアを真っ先に開けました。ドアが閉まっては脱出できなくなると思ったからです。市役所の旧庁舎は耐震工事が行われてませんから、外に出た方が安全です。そのまま緊急災害対策会議が開かれ、議会は中断。閉会となりました。そして14日(月)に代表者会議が開かれ、一般質問をそのまま終了とし、22日、23日の二日間(出来れば一日)で3月議会を終わらせることが決まったのです。日本中が緊急事態なのですから、当たり前と言えば当たり前のことですが、こんなことになるとは思っていませんでした。

③ こんな時こそ

こんな時こそ、住民からの反対が多い都市計画道路、保谷・朝霞線などの建設は取りやめにして、その財源を被災地の復興に回すべきだと思います。東北の被災地の再建には莫大な資材と時間がかかるでしょう。コンクリート人も食糧も水もまずは被災地へ送らねばなりません。我々にできることは我慢することです。少しの不便をみんなで我慢することで、被災地の復興を応援できるのなら、みんな喜んで我慢するのではないのでしょうか。今回の議会の最終日、語る会たかむらは予算への反対討論で、こう言いました。観光新座などを行っている場合ではない。箱物を造っている場合ではない。住民が7割も反対するような計画道路を造っている場合ではない。」と被災地の様子が分かれば、分かる程、何とかせねば!と思うようになりました。新座市は今月の31日から4月一杯まで被災者・避難者の受け入れ(100名)を決めました。支援は長期化するでしょう。長い目で、市としてできることを考えねばなりません。そして、僕達自身も”できることをやる”ことが必要なのです。来月早々にも東北への支援活動を開始する積りです。



五中の卒業式に行きました。34回目の卒業式でした。第一期生の卒業式から33年。我が塾の子ども達(五中の教え子の子ども達)も卒業です。

たかやんのプロフィール



本名たかむらともや。教育を語らせたら、止まらない男」です。東京都新宿区生まれ。新宿区立西戸山中学、都立石神井高校を経て北海道大学へ。大学3年の時、突然教師になる決意をする。7年から理科の教師として五中・六中・二中で21年間を過ごし98年退職。04年初当選。どの会派にも属せず一人会派「語る会」で、しがらみのない発言をし続けている。新堀・石神「たかやん塾」塾長。黒目川川づくり懇談会」代表。新座五中・六中の男女硬式テニス部を率いて、県大会は50回以上、関東大会5回、全国大会2回優勝。学級通信「一生懸命」を20年間発行し続ける。NHKの「おはよう広場」、最近では「インターネットテレビ」に出演。議員日記は7年と1ヶ月毎日更新。アクセスは14万3千回を超える。小中高生と先生・保護者の生の声を聞きながら、日々教育を考え「観光新座」ではなく「教育新座」を訴えている。ご感想・ご意見をお待ちしています。たかやん



たかやんの応援団 で 検索



たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

☹ 原発の実態

20年間、原発で働いてきた平井憲夫という人がいます。彼が命を懸けて書いた手記によれば、原発の建設現場にはプロの職人が少なく、いくら設計が立派でも、設計通りには造られていないのだそうです。作業員から検査官まで総素人によって造られているというのですから驚きです。日本の原発は二重、三重に多重防護されていても、それは設計の段階までで、造る段階でおかしくなっているのだそうです。そして、怖いのが内部被爆です。原発の建屋の中は、全部の物が放射性物質に変わってきます。物がすべて放射性物質になって、放射線を出すようになるのです。どんなに厚い鉄でも放射線が突き抜けるからです。体の外から浴びる外部被曝も怖いですが、一番怖いのは内部被曝です。原発の中ではホコリが放射能をあびて放射性物質となって飛んでいます。この放射能をおびたホコリが口や鼻から入ると、それが内部被曝になります。防護服というと、放射能から体を守る服のように聞こえますが、そうではないのです。放射線の量を計るアラームメーターは防護服の中のチョッキに付けているのだそうです。防護服は放射能を外に持ち出さないための単なる作業着で、作業している人を放射能から守るものではないのです。原発の作業では片付けや掃除で一番内部被曝をしますが、この体の中から放射線を浴びる内部被曝の方が外部被曝よりずっと危険なのです。だから、今福島原発で冷却作業をしている方たちは命がけなのです。

さて、福島原発の3号機がプルサーマル原子炉で、ウランとプルトニウムの混合物を燃料にしていることは有名な話なのですが、政府も東電もマスコミも数週間の間、プルトニウムのプの字も言わないのは何故でしょう。どう考えてもチェルノブイリ並みか、それ以上の事故なのにレベル4とか5とか言っているのは何故なのでしょう。少なくとも原子力発電所が安全などという馬鹿げた話を信じる人はもう世界中を探しても殆どいないでしょう。原子力発電がクリーンな発電だという話を信じる人もいないでしょう。原爆も原発も終わらせなくては、そういう時代に突入しているのだと思います。

☹ 腐ったみかん

久しぶりに「金八先生」を見て、泣きました。当時の子ども達を思い出したからかも知れません。最初は「2年B組」だった金八。その時、僕も2年1組の担任でした。そう金八と僕はある意味、同じ時代を生きてきたのです。違ったのは、金八はドラマで、僕は現実を生きていたということ。そして当時の五中には「腐ったみかん」の方程式など、これっぽっちも存在しなかった。と、いうことです。ただ、五中にはなかっただけで、その他の学校には実際にあったのです。そして、その腐ったみかんの方程式は金八が嘆くように広がっていきました。実は腐ったみかんを作り出したのは教師の方だったのですが、力のない教師はそれに気づかず、腐ったみかんを自ら作り出し、そして放り出すことにエネルギーを使ってしまったのです。確かに荒れている学校には、今でもそういう方程式があるように僕は感じています。あの時代、僕は金八になどなりたくはありませんでした。金八は金曜の1時間だけの教師だったからです。しかし、現実の学校に生きる僕らは365日子ども達と向きあっていたのです。金八の中で起きることが、現実の学校でも起きていました。だからこそ、本物の学校で生きている僕が、金八ごときに負ける訳にはいかなかったし、負けてなどいなかったのです。金八になどなりたくなかった。というのはそういう意味です。逆に、僕が憧れたのは「北野広大」先生です。小学校の子ども達の心を掴んで話さない水谷豊の北野広大に僕は憧れました。彼には僕にないものがたくさんあったからです。



5中の2年目の僕と1年3組の子ども達です。給食はいつも子ども達の席で食べていました。賢一、祐二、清泰、千春の顔が見えます。24歳の頃です。